

令和6年度あしたのまち・くらしづくり活動賞 主催者賞受賞

多世代交流から地域の教育力を底上げする

岡山県岡山市北区 特定非営利活動法人だっぴ

中学生だっぴ

●活動内容

年1回の学校行事として中学校に導入している「中学生×大学生×大人」の異なる3者の対話のワークショップ。中学生が大学生や大人たちと、少人数グループでの対話を通して、自分の価値観や過去の経験、未来の目標などについて語り合います。地域の大人たちは個人的なボランティアあるいは企業のCSR活動として参加します。グループファシリテーターを務める大学生は、県内10を超える大学から約250名がボランティア登録をしています。大学生は、約4時間のファシリテーション研修を受講し、中学生が異なる立場の人たちとも安心して対話ができる空間づくりの



中学生の発言にグループメンバーが耳を傾ける



大学生や大人の経験談から中学生が何か発見する



スキルを磨きます。

●成果

活動を開始した2015年から県内22市町45校の中学校で実施しました。2015～2023年度で8050人の中学生が参加し、大学生延べ2949人、大人延べ4396人がボランティアとして参加協力してくださいました。

●効果

定量データから分かる参加した中学生の意識変化は主に以下3つのパターンです。

※中学生だっぴを実践した学校または学年を対象にアンケートを実施し、「とても思う」と回答した者の割合

n11参加前：1856、

参加後：1819(2023年度)

回答選択肢は「とても思う」「まあそう思う」「どちらでもない」「あまりそう思う」「全くそう思わない」

①自己肯定感・自己効力感の向上

「自分と異なる意見や価値観を持つ人とも関係を築くことができると思う」

参加前：27・2%↓参加後：48・9%

「自分の行動により、自分の周囲の状況を少し変えられるかもしれない」

参加前：18・7%↓参加後：37・1%

②将来への期待

「大人になるのが楽しみだ。または、働くことが楽しみだ」

参加前：25・9%↓参加後：41・4%

③地域社会への帰属/当事者意識

「私は、私の住んでいる地域を大切に思う」

参加前：38・9%↓参加後：50・9%

定性データからは、主に図1のような気づきがよく見られます。自分の外の世界にいる大人と関わり、固定観念が外れたように

思います。

ラベル	感想
自分の考えを聞いてくれる人がいる	自分の考えをここまで人に話したのは初めてだったけど、それを真剣に受け入れてくださったのがとても嬉しかった。
楽しく生きる大人がいる	大人の人たちは皆さん輝いていて、私もそうなれる未来があることに安心したし、希望を見つげられた。
異なる他者とも関われる自分がある	関わりをもったことがなかった人でも会話することで、仲良くなることができ、親しい関係を築くことができるということを実感することができた。

図1 気づきについて

中学生だっぴノウハウ移転

●活動内容

岡山県内のあらゆる地域の教育力を底上げするため、「中学生だっぴ」を地域に根差した活動として展開しています。中学校区あるいは市町村単位で「だっぴ実行委員会」を地域の人たちが組織し、自分たちの力で中学生だっぴを企画運営します。NPOだっぴは、実行



各地域の実行委員会の企画会議

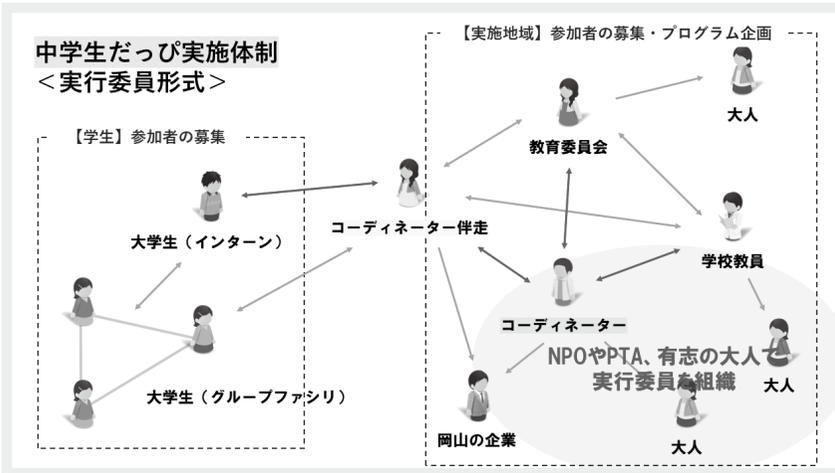


図2 中学生だっぴ実施体制

●**成果**
 2019年から活動を開始し、現在9つの実行委員会が組成され、これまでに約100の委員会に対して企画運営のノウハウを提供し、企画運営に係る費用は自治体あるいは学校が負担します。



図3 中学生だっぴを起点にした地域づくり

名の地域の人たちが企画運営の中心を担ってくださっています。実行委員会の主管として、市町村に根付いた教育NPOやPTA、地域学校協働本部、公民館、有志の大人など、地域によって様々なキーパーソン(団体)が力を貸してくれています。(図2)



備前市のユースセンター「INBase」

●**活動内容**
 実行委員会を各地域の実施主体として、(中学生だっぴ以外の)教育プログラムの開発をNPOだっぴ単独あるいは実行委員会と協働して行います。その実践を実行委員会のネットワークで共有することで、それぞれの地域での実践知がほかの地域にも影響を及ぼし、

地域の教育力を底上げする教育機会の開発と実践知の共有

お互いの地域で高め合いながら教育力を底上げすることを目指します。(図3)

● 成果

実践例① ユースセンター

2019年、備前市のだっぴ実行委員会から「中学生だっぴの年一回の機会以外でも、中高生が社会と関わる場をつくりたい」という声があがりました。そこで、実行委員会を主管するNPO法人「salon」と協働して、中高生の居場所と活動拠点としてユースセン



久米南町のユースセンター「よしみちハウス」

ター・ZBBBを2020年に開設しました。このユースセンター開設と運営の実践を他のエリアにも波及させ、久米南町でだっぴを企画運営するNPO法人らんだんのユースセンター開設・運営をサポートしました。

実践例② 各種ワークショップ

ワークショップの実践として、方法や成果をnoteに整理して発信・共有。ワークショップのタイムテーブルや進行スライドを協力団体に提供し、教育プログラムが各地域で



大人や大学生スタッフと高校生がコミュニケーションできる

ラッシュアップ・進化発展することを目指します。

実践例③ 校内フリースペース

2022年にNPOだっぴが始めた高校での校内フリースペース「放課後キャリア探究」の運営について、その実践を整理して、赤磐市の中学校や備前市の定時制高校ではNPOだっぴ以外の実施主体で運営します(2024年度予定)。

(NPO法人だっぴ 代表理事 森分志学)



普通の学校にはない「はじめての体験」にチャレンジできる